

荒 沢 岳 山 行 記 録

目的地	荒沢岳（登山口 P～山頂ピストン）	期 日	平成 16 年 1 0 月 2 日（土）
山行人	笠原正雄単独	特 記	5 年前雨で断念した山

地 点 名	(着)～(発)	天候	記 事
与 板	午前 3:40 発		
登 山 口 P 着	5:10	ガス	トンネルから白光橋に出るとガス。暗い中登山口を探す。駐車場は立派なトイレ。建物に入ると自動点灯。車中朝飯。最初の 1 台だったし、うす暗いので出発をためらっていると隣に 1 台来た。この単独男は車から降りるやトイレを済まして、歩き出して行った。
登 山 口 P 発	5:45	〃	明るくなって出発。一人入山者がいると思うと安心感。急登。
前 山	6:20	晴	三角点があるのみ。駒・未丈・三角山等が見える。
	6:45	〃	前岨が見える。
休 憩	7:00～7:08	〃	休憩。前岨と湖上の雲海を撮影。
前 岨 岩 場 基 部	7:23	〃	「ここより岩場注意」の赤文字看板。鎖とハシゴ始まる。ハシゴは出始めのうちに 4 度。鎖は新しそうで銀色。太くて重い。
	7:40～7:50	〃	鎖場途中のピークで休む。少し下がって岩壁左トラバース。
前 岨 標 識 手 前	8:15～8:25	〃	鎖を終り、やせ尾根道にとび出し休む。中年単独者が上がって来た。無愛想に追越して行く。すぐに前岨標識（荒沢岳 1.8 km・伝之助小屋 3.5 km）。しばらくしてからストック歩行とする。
	9:10～9:18	〃	急登の途中休む。三角もちを食べる。湖上の遊覧船が尾瀬方面へ進んで行く。新発田からの若者が追越して行く。
	9:30	〃	朝一番の男が降りて来る。40 歳過ぎと思われる赤い T シャツの健脚男だ。「あとの位ですかね?」「うーん、もう少しありますね」
鎖 場	9:45	〃	ストックをザックに、鎖は 1 本のみ。この手前で無愛想男が降りて来る。
山 頂	9:55～10:45	〃	新発田若者 1 人。写真を撮り合う。駒ヶ岳、そしてその先にハツ峰ピークが少し見える。中ノ岳・兎岳・燧ヶ岳 etc. 展望素晴らしい。兎岳への縦走路もしっかり見える。のち、柏崎からの若者が上山して来た。しばらく 3 人で過ごす。下山の厳しさを考え、持参のウイスキーを少々残した。これは初めてのことだ。2 人より先だっで下山開始。
半 袖 歩 行	11:10	〃	コース途中で長袖とベストを脱ぎ、半袖に着替える。同年代の上山男女 8 人隊と逢う。その後男女 4 人隊、単独男と逢う。いずれも中高年登山。
前 岨 標 識 直 後	11:50～11:55	〃	上山時と同じ場所、鎖にとりかかる直前で休む。新発田男追越して行く。
岩 場 基 部	12:30～12:40	〃	鎖・ハシゴを終り一安心。右手の小広場で休む。以後ストック歩行。
前 山	1:25	晴	駒・荒沢の頂は雲がかかってきた。日差しは強い、但し陰ると涼しい。
登 山 口 P	1:55	晴 曇	白銀の湯へ向かい入浴（650 円）。新発田男がいた。湯船の中で山の話をする。湯からあがると広間はちょうど良い位の人数であった。TV がイチローの大リーグ安打新記録を報じている。一眠りしたいところだが、寝込んでしまいそうなので、自販機の飲み物を飲んですぐ帰路に着く。
与 板 着	5:00	曇 小雨	3:10 に登山口 P を通過する。ゆっくり運転を心掛けた。朝持参したポットのお茶がうまい。車中で持ってきた食料を殆ど食べ尽くした。

5 年前だろうか、石黒正幸を CL として計 4 人でこの山を目指し、駐車場テント泊で前夜現地入りした。起きて朝は雨、雨の前岨は危険ということから入山経験のある CL の判断で断念した。そして会津駒ヶ岳へと山を変更したことがある。その CL の決断が適切なものであったということが実際に行ってみて分った。

先〃月、駒ヶ岳からこの山を見た。稜線が美しく頂が鋭い。飯豊から中 4 日、疲れが取れきらぬうちの入山である。出だしから急登で堪えたし、少しの登りでも脚が辛かった。そして鎖の登りと降りて翌日は腕の疲労痛が残った。

その駒ヶ岳の道中で燕二人の話では荒沢の方が岩場はあるものの、駒ヶ岳より楽だと聞いていたが、なかなか登り応えのある山であった。

天気予報が昼すぎから良くないと報じていたので、早い時間の入山、下山を心掛けた。案の定 3 時過ぎから怪しくなり、その後山は雲に覆われた。

いつか行かねばならぬと決めていた山の一つであった。